

運天理地利時歩犬当棒

学校法人昌平黌 理事長

儒学文化研究所 所 長

田 久 孝 翁

今年の干支は戌年（犬）と云うことから、八十五歳を迎えるに当たり、天理の法則に従い、個人の利徳を一口に云って、犬も歩けば棒に当たるの譬えの通り、天の理と地の利は正に時の運に任せて、形振り^{なりふ}かまわず、吾が道を行くと云うのが、我が人生を振り返ることでも必要であります。

その意味に於いても、吾れ十有五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず。孔子はその時その年代に於いて確かな人生観を銘記しております。二五五七年に及ぶ歳月の流れと、今日に至る社会的倫理の構成が求められているのであります。時恰も教育基本法の改正（愛国心）等取り沙汰される今日であります。国を思う心の中は誰しも同じであります。先ず大事なことは（自尊自愛）自らを大事にすることです。「自らを重んずると共に他を尊ぶべし」、自分の存在を蔑ろにするものが他人や国など思いやるすべもありません。昨今毎日のように子供が親を、親が子供を、延いては自他人の識別が出来ない身勝手な人間が多すぎる。果たしてそれが氷山の一角と云ってしまえばそれまでであります。連日このような問題が取り沙汰されておりますことは、それこそ氷山の一角であり、日本国の風潮と化していることでもあります。己の欲せざるところ人に施すこと勿れ、幼弱を扶くべし、強暴に屈すべからずであります。

その意味で強く正しく生きる為には、常に心身の鍛練を怠ること勿れ、と云うことで心身の教育が第一の課題であります。そこに私学の憲法「建学の精神」があります。

私学でなければ学ぶことの出来ない建学の精神であります。孔子は今を去る二五五七年前の人であります。その欲するものは今日に至るも変わらないと云うことは、愛国心などと云うものではありません。あくまでも自己研鑽に基づく人間愛が有教無類として今日に及んでいるのであります。私学の使命感としては指導教育全人教育、自らを重んずる教育、初めて人を愛する教育が出来ると云うことではないでしょうか。最後に私学の憲法建学の精神について本学の前身昌平中学創立訓・修為要領十七ヶ条を紹介して参考と致します。

創 立 訓

修為要領十七ヶ条

- 一、人の貴き所以は外物に存するにあらずして、己の心にあることを思うべし。
- 一、自ら重んずると共に他を尊むべし。
- 一、自身を厚うすべし、善に遷るに吝かなるべからず。
- 一、独立の心を強うすべし、協同の念を離るべからず。
- 一、誠実なるべし、己を欺くこと勿かれ、人を欺くこと勿かれ。
- 一、勇敢なるべし、狂暴なるべからず。
- 一、謙譲なるべし、卑屈なるべからず。
- 一、質素なるべし、不潔なるべからず。
- 一、労苦に耐ふべし、心身の鍛練を怠ること勿かれ。
- 一、己に克つべし、外物に心を奪はるること勿かれ。
- 一、心を専一にすべし、妄念に駆らるること勿かれ。
- 一、秩序を重んずべし、自恣放逸の言行あるべからず。
- 一、趣味を高尚ならしむべし、天然に親しむべし。
- 一、同情を有すべし、己の欲せざるところは、人に施すこと勿かれ。
- 一、義気あるべし、幼弱を扶くべし、強暴に屈すべからず。
- 一、知るは知るに止まるにあらずして、修為のためなることを忘るべからず。
- 一、自利の念を離るるに随ひて、人格の高大を致すものなるを記すべし。